

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第二12:19~21 「私の恐れていること」

[19]「あなたがたは、前から、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと思っていたことでしょう。しかし、私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する人たち。すべては、あなたがたを築き上げるためなのです」

10章から続くパウロの弁明も終わろうとしているが、彼にとっていまひとつ気がかりなのは、彼が今まで述べてきたことが自分の評判や人気を気にしての自己弁護と取られはしないかということであった。しかし、彼にとって人からの評価は些細なことにすぎない。→Iコリント4:3 彼の弁明の真意は、すべてコリント教会の人々を正しく神の民、神の教会として築き上げるために公明正大に神の御前でキリストにあって語っているというところにある。

[20]「私の恐れていることがあります。私が行ってみると、あなたがたは私の期待、しているような者でなく、私もあなたがたの期待しているような者でないことになるのではないのでしょうか。また、争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動があるのではないのでしょうか」

コリント人たちがパウロの期待しているようなものではないということは、彼らが相変わらず、様々な罪の中にあるということを示すことになる。ここではそれがリストとして表されている。①争い…対立や抗争、不和を意味し、自我をあくまでも通そうとするところから起こる。これに対する教え→IIテモテ2:24~25

②ねたみ…他人の優越をうらやむ心、悪意の競争心。→Iコリント3:3 ③憤り…カッとなって爆発する怒り。これは争いを起こす原因となる。→箴言15:18 ④党派心…真理によらず、自分の勢力を増大し、分裂分派行動をもたらす心。→Iコリント1:11~12 ⑤そしり…公衆の面前で相手の悪口を言い、侮辱、非難すること。⑥陰口…陰で悪意のあるうわさを流し中傷すること。 ⑦高ぶり…高慢。ここから人を見下すということが出てくる。⑧騒動…多人数が乱れ騒ぐ混乱状態。霊的に成長していない、信仰の幼子と言える人々が陥りやすい状態。

ここであげられていることはコリント人たちだけでなく、すべての信仰者が陥る可能性のあることである。それゆえ、そのような状態から抜け出し、潔められ、向上し、キリスト者として霊的に成長した者となれるように祈り、聖書のみ言葉によって養われなければならない。→IIテモテ3:16~17、ヤコブ1:21~22

[21]「私がもう一度行くとき、またも私の神が、あなたがたの面前で、私をはずかしめることはないのでしょうか。そして私は、前から罪を犯していて、その行った汚れと不品行と好色を悔い改めない多くの人たちのために嘆くようなことにはならないのでしょうか」

伝道者として最も悲しいことの一つは自分が伝道して立て上げた教会の人々が救われているといっても、中途半端な悔い改めしかなかったり、相変わらず罪と肉の働きの中で生きているのを見なければならぬことである。そのことを、パウロは

「神が、あなたがたの面前で、私をはずかしめること」と表現している。ここで彼は、「汚れ、不品行、好色」をリストに追加しているが、それはひとことでまとめれば不道徳ということであり、肉体に関することである。

神がそのひとり子イエス・キリストを与えてくださったほどに愛している者たちが、罪、汚れ、不品行の中にとどまり続けているならば、どれほど神は悲しまれるだろうか。

やがて神がすべての者を正しく裁かれる世の終わりの時がやって来る。その時、そういうクリスチャンたちはどのような言い訳ができるだろうか。

私たちも今日の箇所から教訓を学び、悔い改めるべきところがあるならば悔い改め、きよめられて信仰生活を正しく送り、キリスト者としての成長、また成熟を目指して進んでいかなければならない。→ I ヨハネ1:9~10、黙示録22:10~12